

尾瀬・�行山 山スキー

丁野

メンバー：丁野・I崎・H口y・A原

2026年2月11日

今回は、少し登り応えのある山行をと思い、宝台樹スキー場から武尊山の北面を往復するルートを考えていたが、なぜかこの日だけ予報が悪い。下界は本降りの雨、山でも湿った雪の予報で、武尊山北面はもとより、行くこと自体を考え直さなければならない予報である。さて、どうしたものか？

地元、昭和村に住むI崎さんによれば、「ゲレンデの気温が0℃前後だからおそらく雪だろう」という。それなら、距離もそんなに遠くないので、行くだけ行ってみようか。ただ、ルートは、武尊山北面は止めて、多少の悪天でも森の中メインで遊べる、過去に何回か行ったことのある�行山に転進することにした。ここなら、雨はさすがに勘弁だけど、雪だったら充分に楽しめるだろう。

転進を決めたのが、出発の前日。当初の計画と比べ、かなり緩い計画になったので、急遽、会で募集をかけるが、さすがに昨日の今日なのでエントリーしてくれる人はいなかった。

前日は21:00に練馬駅を出発。23:00過ぎにはI崎邸に到着。普段、秋田だ、岩手だと遠出をしているからか、群馬はホントご近所さんである。お陰で入山祝いは盛り上がり、せっかく早く着いても、結局、寝る時間は遅くなるのだから懲りない面々である。

2/11



見下山荘跡に9:45着。前回は、この辺りから尾根に取付いたが、1450m～1550m付近が非常に急峻で、スキーでは登れず、シートラーゲンで強引に登ったという苦い経験がある。今回は、もう少し楽に登れそうな場所を・・・ということで、踏み跡が伸びている車道沿いをさらに進む。ただ林道を歩いていてもあまり面白くないので、途中から沢沿いを歩き、田代の手前の斜面に取付くことにする。

しかし、ここも1550m～1650mの間が急峻で、スキーで登るには結構テクニカルだ。I崎さんが必死にルートを切り開くが、ほんのわずかな距離にもかかわらず、結構苦労させられた。

ちゃんと6:00には起床し、尾瀬戸倉スキー場に向け出発。途中、コンビニで朝食を食べたり買出しをしたりしながら行くが、思ったより道が混んで結構時間がかかる。予定より30分以上スキー場に着くのが遅れ、出発は8:45になる。幸い天気は、小雪が舞う程度で風もなく、行動には全く支障がない。これは嬉しい誤算である。

◆写真 林道を歩く

1ピッチ林道を歩いて富士



後で地図をよく確認すると、林道からアプローチする大行山南面は1450m～1650mのどこかに標高差100mほどの急峻な地形があり、その突破をいかに攻略するかで、だいぶ印象が変わってくると思う。

おそらく、一番楽なルートは、あまり面白みはなく、少し大回りにはなるが、田代まで林道を行き、1752m峰と1786m峰の鞍部を目指して登り、1752m峰の北側を巻いて大行山に至るルートだと思う。このルートなら、田代まではキャットトレースがあり、ラ

ッセルの心配やルートに迷う心配もない。急斜面も1600m付近にあるにはあるが、等高線は他より緩めだ。

そして、もう一つのルートは、富士見下山荘跡よりも手前にある、大力ッパ沢右岸尾根だ。ここも、地図を見る限り、急峻なところがあまりなさそうなので、大力ッパ沢出合手前の硫黄沢にスノーブリッジがあつて容易に渡れれば、大行山には最距離で登れるので有力候補となるだろう。

ただ、急峻な地形に苦労するとはいっても標高差100mほどなので、逆にシール歩行の練習と割り切れば、それほど苦になるものではない。今回、僕たちがしたように、人のトレースを当てにせずに、自由に自分でルートを考えて登るのも、またひとつの楽しみだと思う。

◆写真上 林道だけど雰囲気は悪くない

◆写真中 カラマツ林

◆写真下 気持ちの良い疎林

さて、話を戻すと、この急峻な100mを、シール登高技術を屈指してなんとか登り切れば、あとは穏やかな地形が広がり、のんびりと歩いて行ける。

この辺りは南斜面だが、山頂から標高差200m位はメローな疎林で雪質に恵まれれば初級者でも楽しく滑れるとと思う。ただ、そのまま登り返さずに下山するな



ら、大力ッパ沢左岸の1428m標高点のある尾根に乗るのが肝要だ。そうしないと急峻な地形に迷い込み苦労することになるとと思う。また、大力ッパ沢右岸尾根も、滑って下山するにはメロ一な斜面が続いている良いルートだと思う。

ただ、今日の僕たちの狙いは雪質の良い北面なので、この快適そうな疎林の南斜面はただ登るのみである。この斜面を散策気分で快適に歩いて12:05に大行山山頂着。「鈴蘭山の会」が設置した道標があるが、それほど目立たないので、注意していないと見過ごすかもしれない。山頂で記念写真を撮っていると、I崎さんの「スマホがない！！」と青い顔。「さっき見ていたよねえー」「どこまで記憶ある！！」とひと騒動。幸いにも100mほど手前の雪面に落ちていたのが奇跡的に見つかりホッとする。

- ◆写真上 大行山山頂！！
- ◆写真中 標識が気に括り付けてある。
- ◆写真下 メロ一な疎林を滑る。

さて、気を取り直して赤沢を目指して北面の滑降だ！！上部は針葉樹の森だが、すぐに広葉樹の疎林となり、北面ならではの快適な雪質の気持ちの良い斜面が、標高差で約200m続く。今日一番のお楽しみポイントである。ここは気持ちが良くてつい声が出てしまう。気づけば自分と同じ猿が3匹、何やら声を上げながら楽しそうに滑ってくる。この斜面を滑る人はほとんどいないのでもちろんノートラック、贅沢な気分を満喫させてもら



う。

お楽しみの後は、1752m峰と1786m峰の鞍部まで、約120mのハイクアップ。ここも静かで気分の良い登りである。鞍部でシールを外せば田代に向け、最後のお楽しみである。斜面が南向きになるので雪質が重くなるが、まあ、滑れない雪ではない。ここは右寄りにルートを採り、できるだけ尾根上を滑るのが肝要だ。快適なところを滑って行くと、崖のような急斜面に入り込んでしまう。我々も入り込みそうになって必死に右の

尾根にトラバースして何とか尾根に乗った。ここ

のルート取りは、初見だと要注意である。

田代の南端に降りれば、あとは往路で付けたトレースか林道を行けば自動運転。富士見下山荘跡より上部は林道をショートカットしながら滑れる。この後は勢いを殺さずに滑って行けばスキー場まであっという間である。

今回、予報が悪く、中止も考えたが、来てみれば普通の穏やかな天気で、快適な山行となった。大行山は手頃な割に人も少なく、（アヤメ平方面に行く人はたくさんいた。）自分達だけで山を独り占めできてよかった。今回、気温が高かったので雪質も心配したが、北面は快適なパウダーで南面も何とか普通に滑れる雪質だった。やっぱ来てみないとわからないですね！！今回は来て正解！！ご同行いただいたメンバーの方々、有難うございました！！また、宜しくお願ひ致します。

◆コースタイム

尾瀬戸倉スキー場 (8:45) ~ (9:45) 富士見下山荘跡 (9:55) ~ (12:05) 大行山 (12:27) ~ 北面滑降 ~ (12:34) 1564m付近 (12:54) ~ (13:15) 1752峰と1786m峰の鞍部 (13:42) ~ (14:05) 尾瀬戸倉スキー場

